

令和5年度

名古屋大学大学院情報学研究科 心理・認知科学 専攻 入学試験問題（専門）

令和4年8月8日

注意事項

1. 試験開始の合図があるまでは、この問題冊子を開いてはならない。
2. 試験終了まで退出できない。
3. 辞書の持ち込みは認めない。
4. 日本語または英語で解答すること。
5. 問題冊子、解答用紙1枚、草稿用紙1枚が配布されていることを確認すること。
6. 設問A～Gまでの1つを選択して解答すること。なお、選択した設問記号を解答用紙の指定欄に記入すること。
7. 全ての解答用紙の所定の欄に受験番号を必ず記入すること。解答用紙に受験者の氏名を記入してはならない。
8. 解答用紙に書ききれない場合は、裏面を使用してもよい。ただし、裏面を使用した場合は、その旨、解答用紙表面右下に明記すること。
9. 解答用紙は試験終了後に提出すること。
10. 問題冊子、草稿用紙は試験終了後に持ち帰ること。

設問 A

問 1 帰納的推論(inductive reasoning)には、様々なヒューリスティック(heuristic)が用いられるとされる。以下の(1)から(3)の問いに答えなさい

(1) ヒューリスティックとは何かを説明せよ。

(2) 以下は、人間の帰納的推論が、確率の基本規則に従わないことを例示した Tversky & Kahneman の実験で提示された刺激文である。以下の(a)から(c)に答えよ。

リンダは 31 歳で、独身で、率直で、大変に聡明な女性である。彼女は、大学で、哲学を専攻し、(中略)、人種差別問題に深くかかわっていた。

(a) 参加者は、これに続いて、2 つの命題文が真である可能性を求められた。一方の文 A は、「リンダは、銀行で出納係をしてフェミニスト運動に活発に参加している」であった。もう 1 つの文 B を示しなさい。

(b)参加者は、文 A と文 B が真である可能性は、どちらが高いと見積もるか。

(c) (b)の実験結果で、重要な点は何か。

(3) この現象を、類似性 (similarity)やプロトタイプ (prototype) などの用語を使って説明せよ。

問 2 学習や教育における動機づけについて、以下の(1)から(2)の問いに答えなさい。

(1) 内発的動機づけ(intrinsic motivation)と外発的動機づけ(extrinsic motivation)について、事例をあげて説明せよ。

(2) 内発的動機づけと外発的動機づけがもたらす行動に関する違いを説明せよ。

設問 B

1. 次の文章の（ア）～（コ）に入る適切な語句を、（ア）～（コ）の記号とともに解答せよ。

感覚器官 (sensory organ) を通じて最初に獲得される情報は、（ア）と呼ばれる短時間しか持続しない記憶 (memory) に入る。（ア）には、すべての感覚器官に対応したものがあると想定されるが、視覚に対応するものを（イ）、聴覚に対応するものを（ウ）と呼ぶ。（ア）は非常に（エ）容量があると考えられている。

情報を作業記憶 (working memory) で保持するために行う能動的な努力や反復を（オ）と呼び、覚えるべき情報を相互に関連づけたり意味づけを行うといった情報処理水準の深い処理を（カ）と呼ぶ。40 語の単語を、1 回に 1 語ずつ提示されて記憶しなければならないときに、単語の正再生率は単語の提示された順によって異なる。最初のほうに提示された単語の再生率が良いことを（キ）、最後のほうで提示された単語の再生率が良いことを（ク）という。これらのうち、長期記憶 (long-term memory) に定着されやすいのは（ケ）単語である。

遅延反応課題 (delayed-response task) を遂行する (perform) サルの異なる脳の領域を損傷 (lesion) した実験で、短い遅延時間 (delay time) の試行 (trial) の成績が悪くなるのは、脳の（コ）を損傷されたサルである。

2. 無意味な文字列を提示することで、作業記憶において音韻符号化 (phonological coding) がされていること示した古典的な研究について説明せよ。

3. 感覚記憶の性質を、「全体報告条件」(whole report condition) と「部分報告条件」(partial-report condition) という二つの用語を用いて説明せよ。

設問 C

以下の（１）、（２）の問いの両方に答えなさい。

（１）心理学における感情理論である、「基本情動理論（basic emotion theory）」と「心理構成主義（psychological constructivism）」を簡潔に説明しなさい。

（２）近年、「心理構成主義」を提唱する研究者は「基本情動理論」を批判している。その根拠となった研究知見を説明しなさい。また、こうした感情理論の間の論争が社会に与える影響について述べなさい。

設問 D

以下の (1) および (2) の両方に答えなさい。

(1) 次の (a), (b) について説明しなさい。

(a) ブロードマンの脳地図 (Brodmann's map)

(b) 共同注意 (joint attention)

(2) ヒトには we-mode という特別な認知モードがあるという考え方がある。まず (a) Gallotti と Frith が提唱した we-mode とはどのようなものかについて概説し、次に (b) we-mode の例を挙げ、最後に (c) Di Paolo らによる we-mode への批判がどのようなものであったかについて説明しなさい。

設問 E

「メタ認知 (metacognition)」に関する以下の全ての問いに答えなさい。

- (1) 「メタ認知」の「メタ (meta)」とは何を意味するかを説明しなさい。
- (2) 「メタ認知」は、「メタ認知的知識」と「メタ認知的活動」に分類されるが、それぞれが具体的に何を意味するのかを説明しなさい。
- (3) 「メタ認知」の下位概念の一つに「メタ記憶 (metamemory)」がある。概して「メタ記憶は不正確である」ことがさまざまな研究によって示されているが、その理由について具体的な例を示しながら説明しなさい。

設問 F

以下のすべての問いに答えなさい。

(1) 次の(a)～(d)について簡潔に説明せよ。

(a) 自閉スペクトラム症 (autism spectrum disorder)

(b) コア知識 (core knowledge)

(c) 選好注視法 (preferential looking method)

(d) 馴化—脱馴化法 (habituation–dishabituation method)

(2) ヒトにおける顔の知覚発達過程（新生児期から）について、具体的な研究事例を挙げながら説明せよ。

設問 G

以下の(1)、(2)の両方に答えなさい。

(1) 哲学者の Shaun Gallagher が唱えた自己の概念について説明しなさい。

(2) 自分で自分をくすぐってもあまりくすぐったくないという現象は、触覚刺激に対する感覚減衰 (sensory attenuation) で説明することができ、自己主体感 (sense of self-agency) との関連が示唆されている。感覚減衰や自己主体感を生ずるメカニズムのひとつとして考えられているコンパレータモデルについて説明しなさい。必要に応じて図を用いても構わない。